

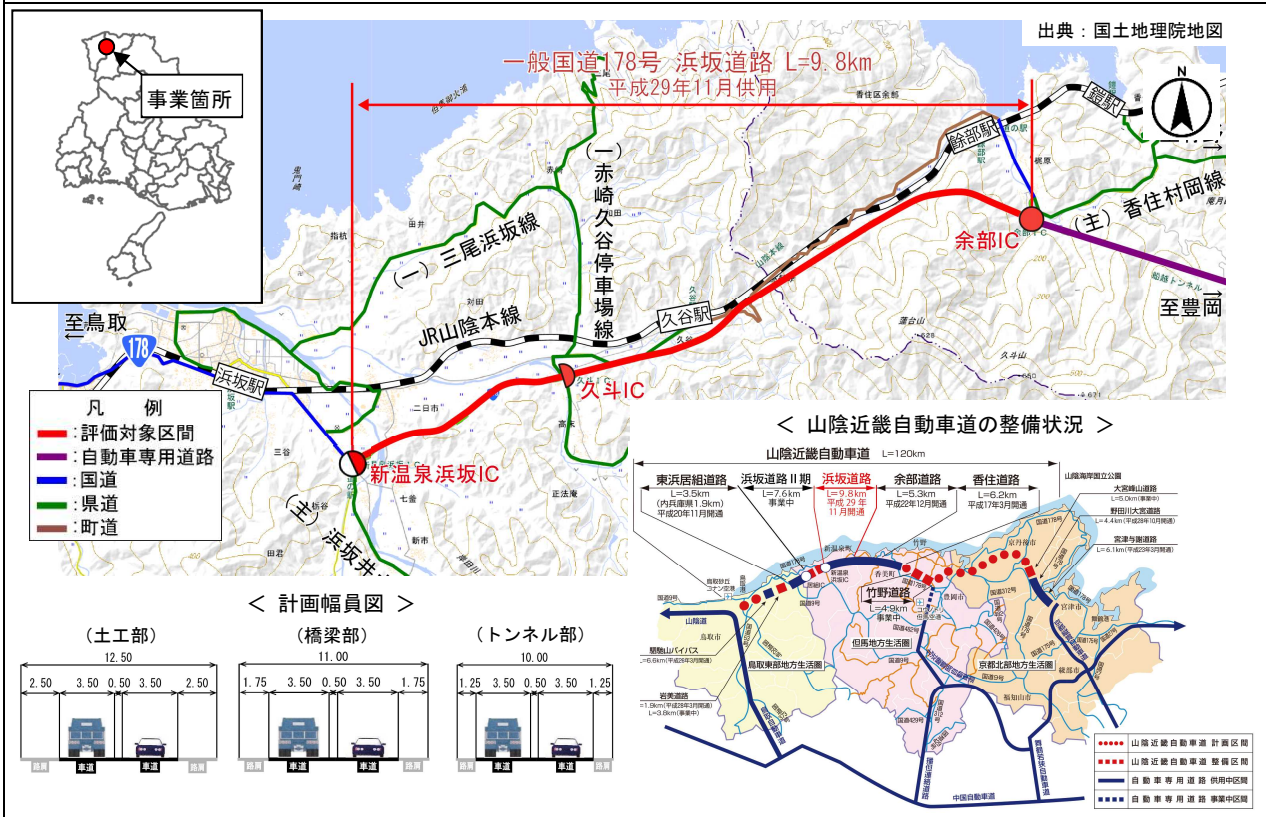
令和4年度 事後評価調書

部課室名	土木部道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 田中秀典 (国道・橋梁班長 吉田頼彦)	内線	4362 (4378)
-------------	----------	----------------------------	-------------------------------	-----------	----------------

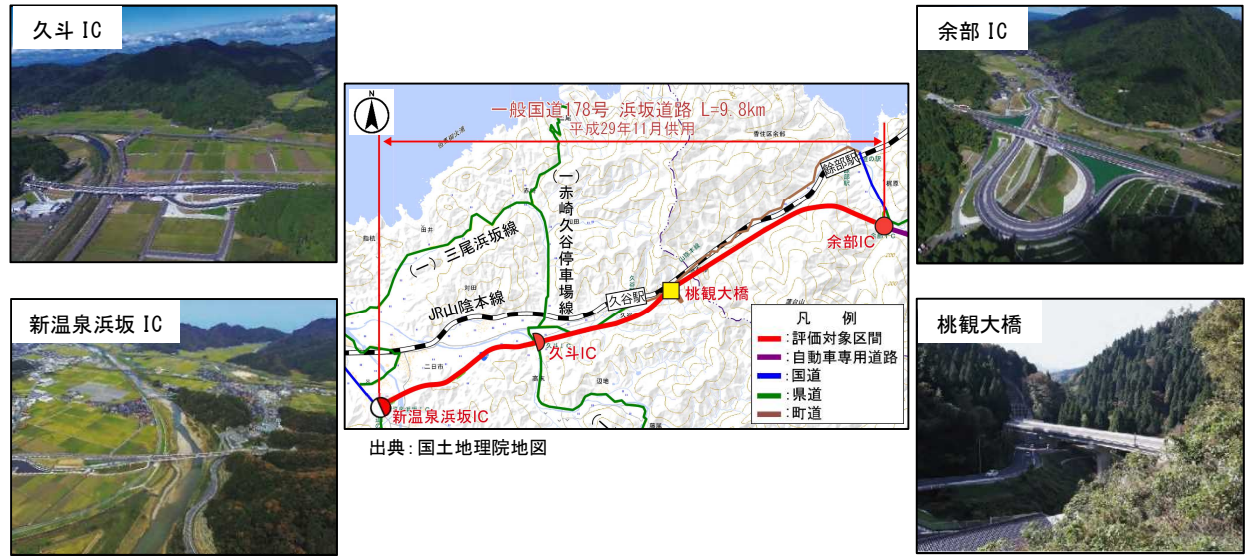
事業種別	道 路	事業名	道路改築事業 一般国道178号 浜坂道路		
事業区間	みかたぐんかみちようかすみくあまるべ しんおんせんちようちだに 美方郡香美町香住区余部～新温泉町栃谷				
事業期間	計画	平成20～27年度	事業費 (内用地補償費)	計画	約245億円(5億円)
	実績	平成20～29年度		実績	約369億円(17億円)
完了年月	平成30年3月 (平成29年11月供用)		過去の評価	平成19年度	新規評価
				平成24年度	継続評価
				平成26年度	継続評価

事業目的	事業内容
<p>一般国道178号 浜坂道路は、基幹道路八連携軸の日本海沿岸軸として、環日本海地域の交流を強化し、広域高速道路ネットワークを形成する山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の一部区間である。</p> <p>○広域高速道路ネットワーク</p> <p>高速交通空白地帯である日本海沿岸地域において、移動時間の短縮等により、交流の促進、産業の活性化、観光の振興等、地域の自立的、主体的な活動を支援する。</p> <p>○地域の安心・安全の向上</p> <p>災害に強い道路として整備することにより、広域防災拠点・3次救急医療機関へのアクセス性向上を図る。</p>	<p>【全体延長】 9.8km</p> <p>【構造規格】 第1種3級</p> <p>【計画幅員】 2車線 車道7.0m〔全幅12.5m〕</p> <p>【計画交通量】 9,200台/日 (R12年予測)</p> <p>【現況交通量(R4実測値)】</p> <p style="text-align: center;">3,927台/12h (久斗IC～余部IC 間)</p> <p>【負担割合】 国：5.5/10、県：4.5/10</p>

●事業概要図



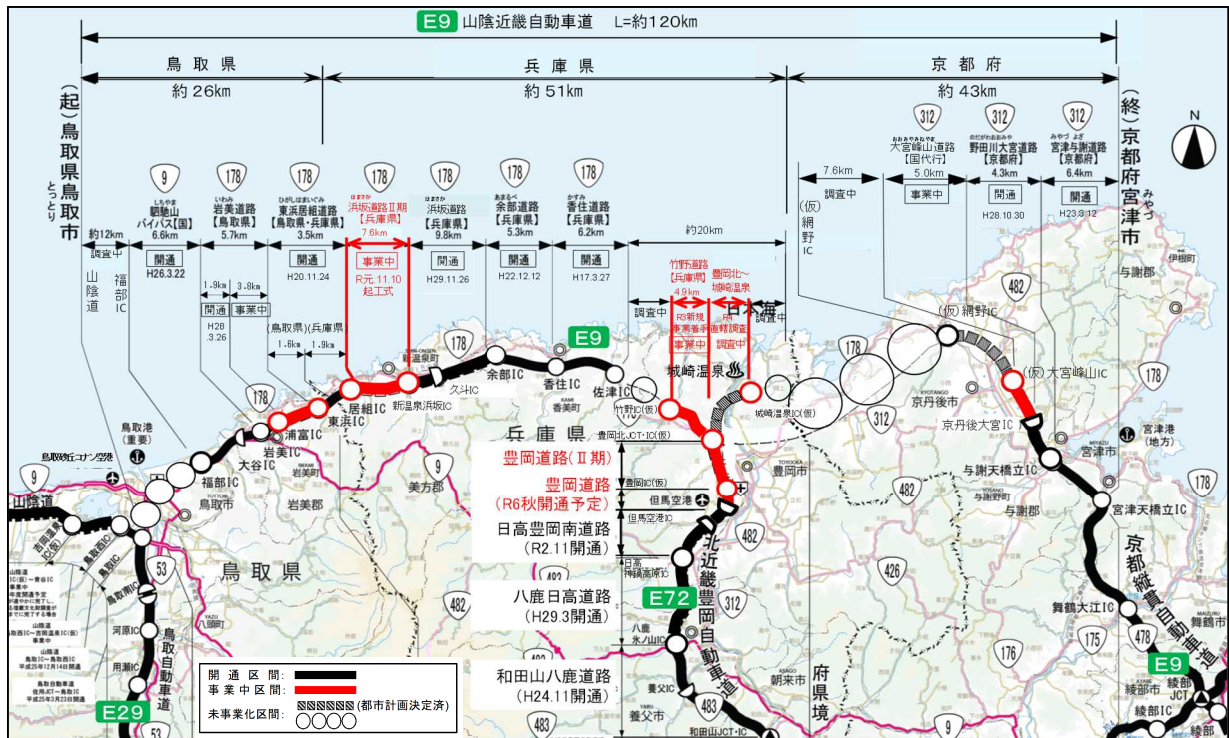
●事業概要図（事業対象区間写真）



●事業を取り巻く社会経済情勢等の変化

① 山陰近畿自動車道・北近畿豊岡自動車道の整備状況（令和4年11月現在）

- 山陰近畿自動車道約120kmのうち、鳥取県内は10.1km、兵庫県内は23.2km、京都府内は10.5km合計で総延長の約37%にあたる43.8kmが供用している。
- 現在、鳥取県内は岩美道路の3.8km、兵庫県内は浜坂道路Ⅱ期と竹野道路を併せて12.5km、京都府内は大宮峰山道路の5.0km、合計で総延長の約18%にあたる21.3kmが事業中である。
- 上記のほか、国土交通省が事業を進めている北近畿豊岡自動車道は、豊岡道路が令和6年秋に開通予定と公表されるなど、浜坂道路周辺を取り巻く環境は刻々と変化している。



整備状況	延長(全長約120km)	鳥取県(約26km)	兵庫県(約51km)	京都府(約43km)
供用区間	43.8km(37%)	10.1km	23.2km	10.5km
事業中区間	21.3km(18%)	3.8km	12.5km	5.0km
未事業化区間(調査中区間)	約54km(45%)	約12km	約15km	約27km

●事業の効果の発現状況

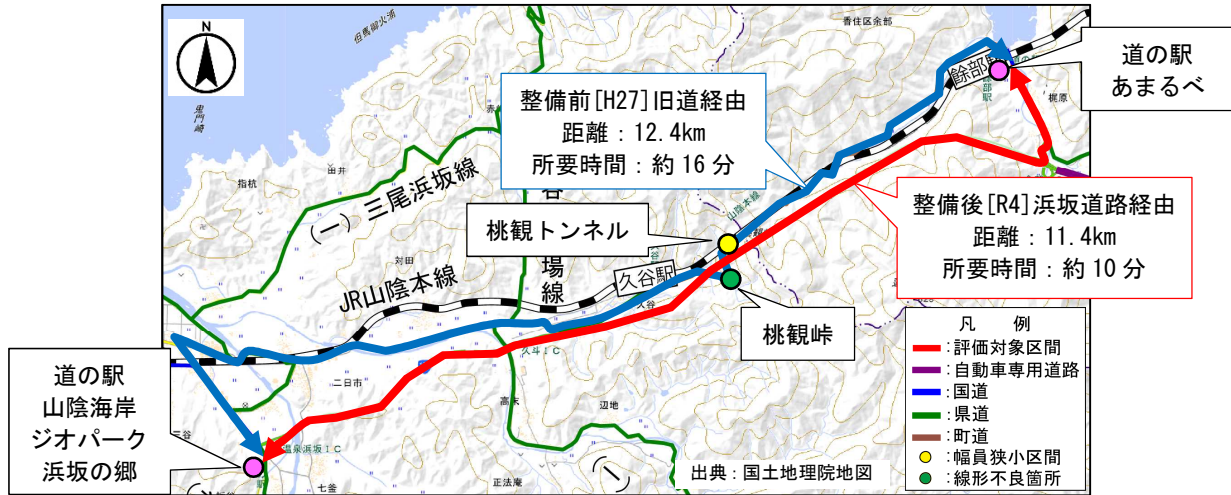
想定した整備効果等及び整備後の状況

【直接効果】 1. 交通の円滑化

(1) 移動時間の短縮・走行性の向上

・浜坂～余部間を結ぶ旧国道 178 号は、桃観トンネルなどの幅員狭小区間や桃観峠などの線形不良区間、急勾配区間が多数存在しているが、浜坂道路の整備によって走行性が大幅に向上した。その結果同区間における所要時間が約 6 分短縮した。

(整備前[H27 道路交通センサス]：約 16 分→整備後[R4 実態調査結果]：約 10 分)



＜ 旧道における主な幅員狭小区間および線形不良箇所 ＞



ヒアリング結果 (令和 4 年 8 月実施)

●移動時間の変化について

バス事業者

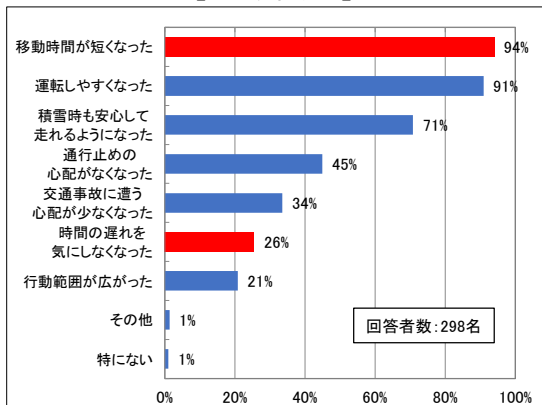


旧道と比べると非常に走りやすくなり、スケジュールの遅れを心配することが減ったと感じている。

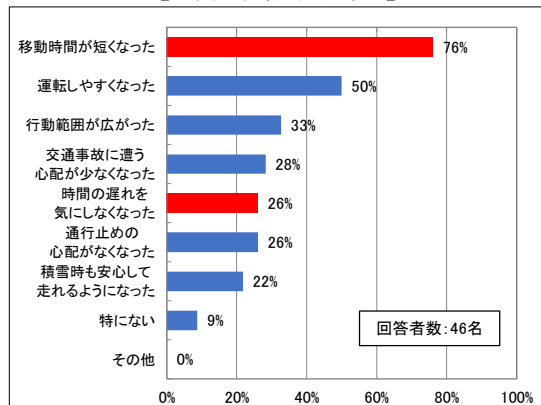
アンケート調査結果 (令和 4 年 8 月実施)

[設問内容] 浜坂道路が整備されて良かったと思うこと (複数回答)

【 地域住民 】



【 観光施設利用者 】



地域住民・観光施設利用者ともに「移動時間が短くなった」「時間の遅れを気にしなくなった」など「時間」に関する効果を実感した割合が高い

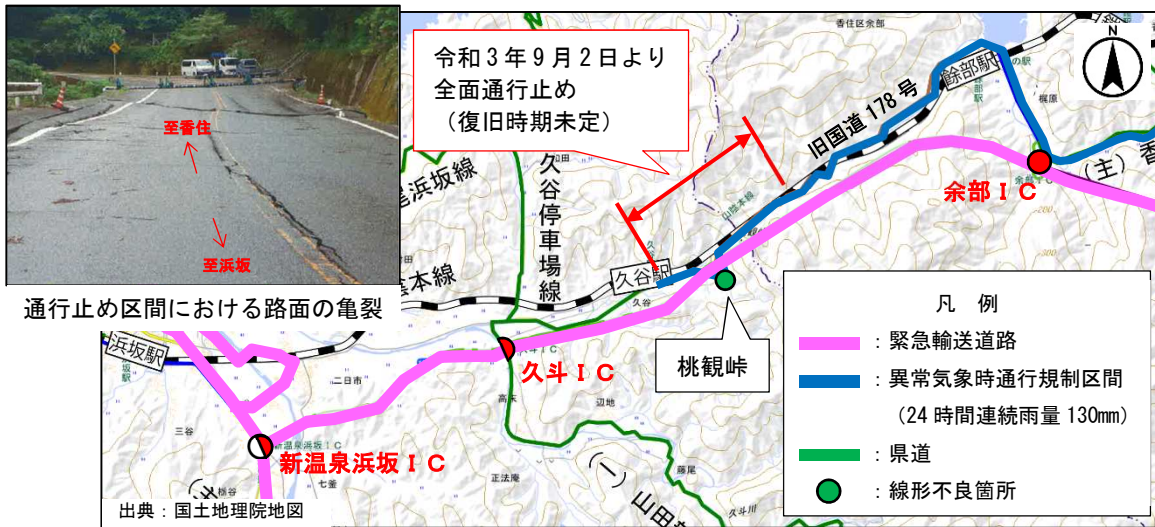
【直接効果】2. 安全・安心の確保

(1) 防災機能の向上

・旧国道 178 号の桃観峠付近は異常気象時通行規制区間に指定されており、大雨や大雪の際は通行止めとなることから、地域の生活面や救急面で支障となっていた。しかし、浜坂道路が整備されたことで通行規制区間の回避が可能となり、異常気象時における道路ネットワークが確保※された。

※旧国道 178 号では、地滑りにより令和 3 年 9 月から始まった通行止めが現在（令和 4 年 11 月時点）も継続しているが、浜坂道路の利用により地域間交通に支障は発生していない。

＜ 緊急輸送道路および異常気象時通行規制区間の指定状況 ＞



ヒアリング結果（令和 4 年 8 月実施）●通行止め時の移動の変化について

地元商業施設



旧道が通行止めとなった際は南部の村岡方面を大幅に迂回しなければならなかったが、浜坂道路ができたことで迂回の必要がなくなり、営業や通勤時に安心して移動できるようになった。

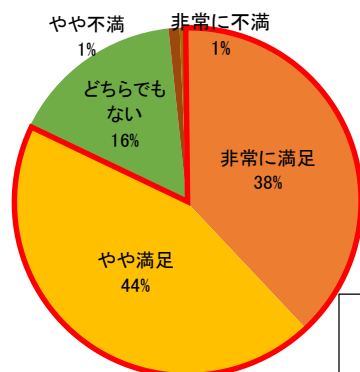
地元漁業組合



買付け等を行う際の通行止めや積雪の影響は大きく、商品の価格にも関わってくる。浜坂道路ができたことで、上記のようなリスクの軽減が図られたと感じている。

地域住民アンケート結果（令和 4 年 8 月実施）

[設問内容]大雪や災害への対応に関する満足度



「非常に満足」「やや満足」の割合は合計82%

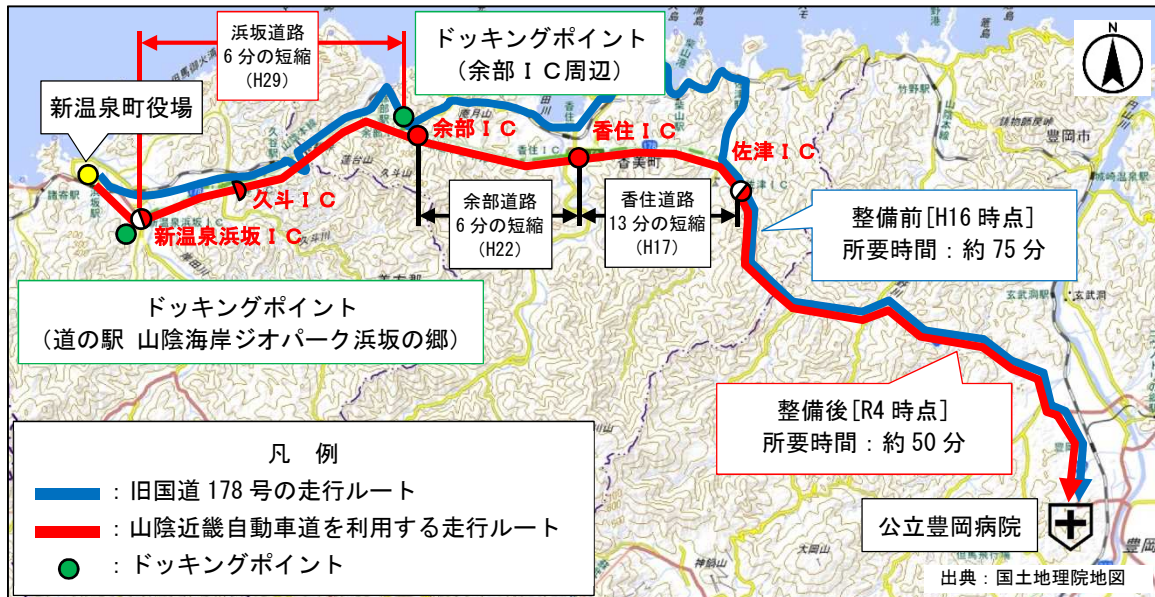


【直接効果】 2. 安全・安心の確保

(2) 救急搬送時間の短縮

- ・旧国道 178 号を走行する場合と比較して、香住道路の開通により約 13 分、余部道路の開通により約 6 分、浜坂道路の開通により約 6 分短縮され、これまでに合計約 25 分の時間短縮が図られている。
- ・公立豊岡病院が運用する「ドクターカー※」と救急車が、特定の地点で合流して患者の引き渡しを行う「ドッキング」までの所要時間が短縮されたことで、医師や看護師による治療の早期介入が可能となり、救急患者に対する救命措置の迅速化が図られている。

※ドクターヘリが夜間や悪天候で運航できない場合、医師と看護師を救急現場に運ぶことを目的とし、公立豊岡病院では平成 22 年 12 月から運行開始。新温泉町内におけるドッキング件数は年間 65 件程度で推移。



ヒアリング結果（令和 4 年 8 月実施）

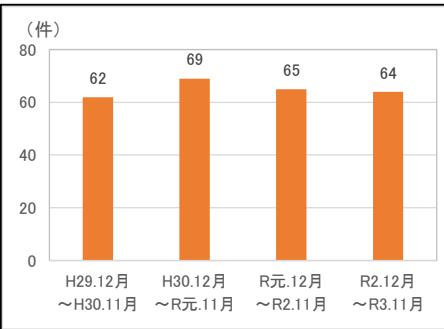
●救急搬送時の変化について

美方広域消防本部



ドクターカーへの引き渡しを行うドッキングポイントとして、主に余部インター出入口周辺と新温泉浜坂インター横の道の駅を利用している。道の駅でドッキングする際、ドクターカーは必ず浜坂道路を利用する。ドッキングまでの所要時間が短縮され、ドクターカーへの引き渡しがより迅速に行えるようになったと感じており、搬送する患者さんや運転手の負担軽減も図られている。

<ドクターカーのドッキング件数> (新温泉町内に限る)



出典：美方広域消防本部提供資料

<平成 30 年 7 月豪雨における通行規制と「いのちの道」としての救急搬送路の確保>



・平成30年7月豪雨の際、但馬地域では複数の県道で規制雨量に達するなどして通行止めが発生
→しかし、浜坂道路をはじめとする山陰近畿自動車道の整備により、緊急車両の通行路を確保することができ「いのちの道」としての役割を果たすことができた

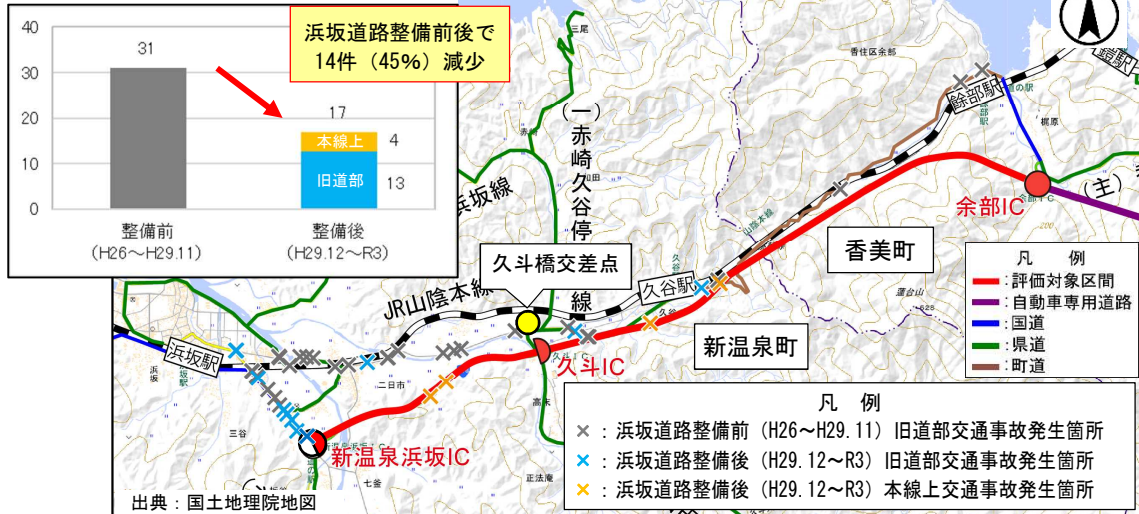
【直接効果】2. 安全・安心の確保

(3) 交通事故の減少

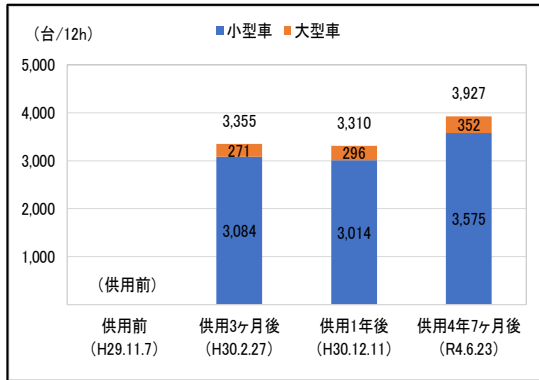
・旧国道 178 号の自動車交通量が約 8 割減少したため（旧道区間（久斗橋交差点東部）交通量の推移を参照）、浜坂道路周辺地域における交通事故発生件数が 31 件（H26～H29. 11 月の約 4 年間）から 17 件（H29. 12～R3 の約 4 年間）、に減少しており、地域の交通安全性の向上が図られている。

< 浜坂道路整備前後における交通事故発生状況比較 >

< 交通事故発生件数の比較 >

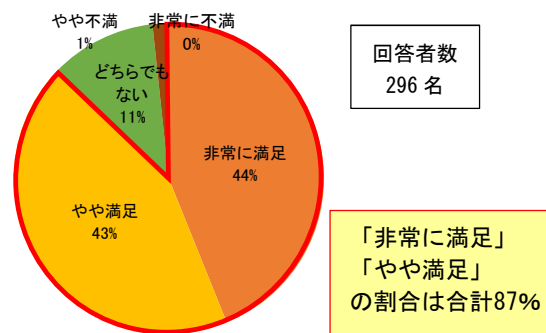


< 浜坂道路（久斗 IC～余部 IC 間）交通量の推移 >

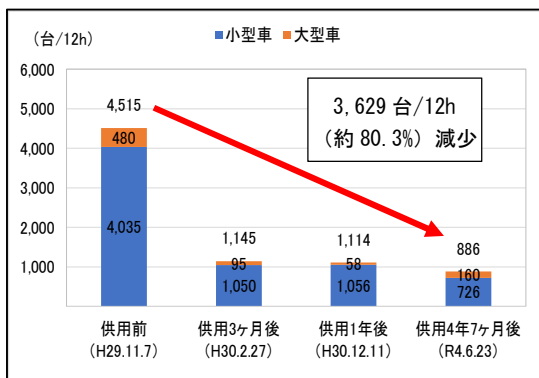


地域住民アンケート調査結果（令和 4 年 8 月実施）

[設問内容] 交通安全性の向上に関する満足度



< 旧道区間（久斗橋交差点東部）交通量の推移 >



浜坂道路の開通により、旧道区間の交通量は約80%減少

ヒアリング調査結果（令和 4 年 8 月実施）

● 浜坂道路の整備に伴う通学路の変更について

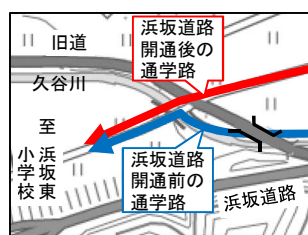
浜坂東小学校



浜坂道路の開通前は、交通量が多い旧道の交差点を避けるため、久谷川沿いの土手を通学路にしていたが、川への転落や野生動物との遭遇、積雪時に除雪できないなどの危険があり、保護者からルート変更の要望が出されていた。

現在は旧道の交通量が大きく減少したため、保護者の要望に沿って旧道を横断するルートに変更している。

< 通学路の変更（久斗 IC 東部） >

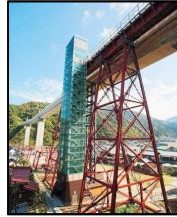
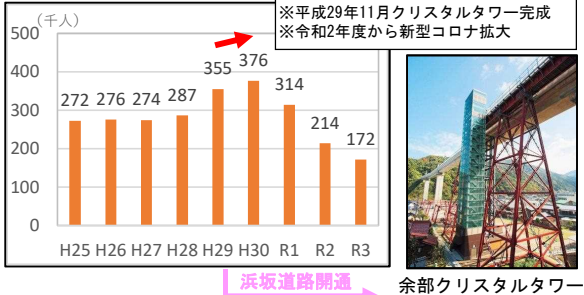


【間接効果】 1. 観光の活性化

- ・ 浜坂道路の整備に合わせて、「道の駅 山陰海岸ジオパーク 浜坂の郷」や余部鉄橋「空の駅」の昇降施設「余部クリスタルタワー」の整備が行われた。
- ・ 上記観光施設の入込客数は、浜坂道路の整備時から新型コロナウイルス感染症拡大前までは増加傾向にあり、観光客から見た整備に対する満足度も高くなっている。

＜ 浜坂道路周辺観光施設入込客数の推移 ＞

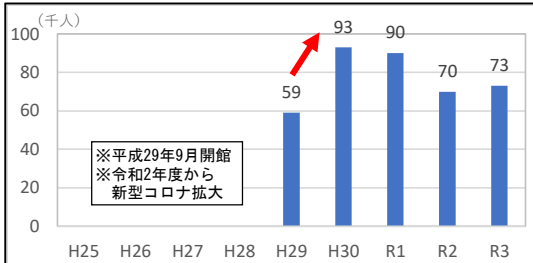
【 余部橋梁、余部鉄橋「空の駅」】



余部クリスタルタワー

浜坂道路開通

【 道の駅 山陰海岸ジオパーク 浜坂の郷 】



出典：観光客動態調査

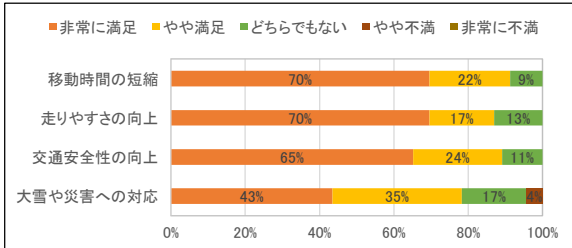
浜坂道路開通

浜坂道路開通（平成29年11月）から新型コロナウイルス感染症の感染拡大前までは、浜坂道路周辺観光施設の入込客数は増加傾向で推移

観光施設利用者アンケート調査結果

（令和4年8月実施）

〔設問内容〕浜坂道路の整備に関する満足度



観光施設利用者から見た浜坂道路への満足度は、いずれの項目でも「非常に満足」「やや満足」の合計が80%前後

ヒアリング調査結果（令和4年8月実施）

● ツアーにおける移動時の変化について

バス会社

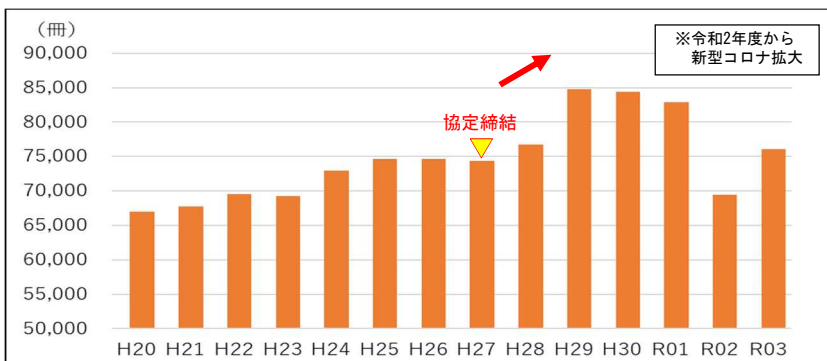


ツアーなどで浜坂・鳥取方面に行く際は浜坂道路を利用している。急カーブや勾配がない浜坂道路を利用することで車体の揺れがなくなり、乗客の視点から見ても、車酔いなどの心配は減ったと思う。

【間接効果】 2. 地域間の交流拡大

- ・ 浜坂道路の供用を見据え、平成27年度に新温泉町、香美町及び鳥取県岩美町の3町で図書館の「相互利用」に関する協定が締結された。これにより、各町民が借りられる蔵書数は、新温泉町で約2倍、香美町で約4倍、岩美町で約4倍と大幅に増加した。
- ・ 新温泉町立加藤文太郎記念図書館の貸出冊数は、浜坂道路の開通により大幅に増加している。

＜ 新温泉町立加藤文太郎記念図書館 貸出冊数推移 ＞



蔵書数（3町計）
約22万冊



全国平均蔵書数
（1図書館あたり）
約14万冊

●事業実施による周辺環境への影響

・通過交通の転換による騒音の軽減及び交通渋滞解消による大気質の改善

浜坂道路の整備によって通過交通が転換し、旧道区間の交通量が減少したため、旧道沿線の地区における騒音の軽減や、CO2 排出量の削減および大気質の改善につながっていると考えられる。

●特徴的な取り組み

・貴重植物（ミツガシワ）の保全

新温泉町長谷地区において、「兵庫県版レッドデータブック 2020」Aランク（絶滅危惧種相当）の「ミツガシワ」の群落が確認されたことを受け、新温泉町天然記念物への指定や地元地区有志による保存会の設立など、保全に向けた取り組みを行った。

【 ミツガシワの姿 】



ミツガシワの花



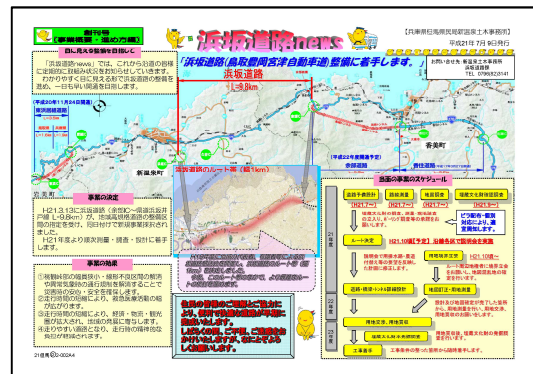
ミツガシワの実

・「浜坂道路 News」の発行・配布

浜坂道路に関する取り組みや事業の進捗状況を地元住民に周知するため、「浜坂道路 News」を平成 21～29 年度にかけて全 30 回発行した。

- ①配布先 浜坂道路を利用する頻度の高い旧浜坂町と旧香住町（第 7 号より余部地区のみに変更）の全戸、町役場等
- ②配布方法 町に依頼（町は各地区に配布する広報誌と一緒に配布）

【 浜坂道路 News（第 1 号） 】



・イベントの開催

浜坂道路では、沿道住民や地元学生等の方々に事業の理解を深めていただくことを目的として、施工現場でのイベントを平成 24～29 年度にかけて全 70 回開催した。

【特徴的なイベント】

- ①橋面落書き（H26. 4. 20 瀬間谷大橋）
- ②トンネルコンサート（H28. 11. 6 大庭トンネル）
- ③ジェットファン見学（H29. 6. 20 新桃観トンネル）
- ④ユキグニミツバツツジ植樹会（H29. 10. 26 浜坂東小学校）

【 トンネルコンサート in 大庭トンネル 】



●改善措置の必要性

・特になし。

●同種事業の計画・調査・事業実施のあり方や事業評価手法の改善の必要性

- ・「新温泉町山陰近畿自動車道整備推進協議会」等において意見交換を行い、地域住民の意見を踏まえながら、ルート検討や IC 配置など計画策定を行った。
- ・現在事業中の「浜坂道路Ⅱ期」などの整備に際しても、地元住民との対話を大切に事業の進捗を図っている。